柏崎の夢中人 その1

継承×飛躍

柏崎のおいしいお米を より多くの人に 知ってもらいたい

株式会社田村農産
春日知代（かすが ともよ）さん

農業機械の操作もお手のもの

同年代の若手農業従事者と刺激を与え合いながらの米作り

生まれも育ちも柏崎という春日知代さんが田村農産に入社したのは、平成25(2013)年のこと。現在、役員・従業員合計 5 人で栽培しているお米の生産量は年間 250 トンにも及ぶそうです。同社では 10 品種のお米を年間通じて栽培しています。また、柏崎市が平成30(2018)年から始めた認証米プロジェクト『米山プリンセス』にもチャレンジし、令和元（2019）・令和3（2021）年には厳しい基準を無事にクリアし認証を受けることができました。「実際に認定されたことによって、自分たちの取り組み方は間違ってなかったという自信にもつながりました」。

このプロジェクトが始まってから、いろいろな意見や考え方を聞いてみたいと考えるようになり、同じ柏崎市内で農業に従事する、若手農業従事者の会にも積極的に出席するようになりました。お米作りのヒントをみんなからもらうだけではなく、同世代からの刺激をもらうことで仕事へのモチベーションも高まりました。「彼らと切磋琢磨（せっさたくま）しながら、お米をより多くの方に知っていただき、食べてもらえるように努力していきたいと思います。ひいては、柏崎の農業発展の一躍を担えればと思います」。

若手農業従事者と連携を図り情報交換を行う

さらに詳しいインタビュー

さまざまな魚が獲れる柏崎は 県内屈指の好漁場

新潟漁業協同組合柏崎支所
茂田井光平（もたい こうへい）さん

親子三代で柏崎の海へ 豊富な魚に多彩な漁法

柏崎で生まれ育った茂田井光平さんが、お父さんと同じ漁師の道を歩み始めたのは、23 歳のとき。お父さんと一緒に漁へ出るうちにさまざまな漁法を学んだ茂田井さん、現在は刺し網漁を基本に、タラやヒラメ、カレイにノドグロなどを獲っています。また、漁が解禁となる夏場には、海に潜ってカキやアワビなどを獲ったり、柏崎の伝統漁法・桶流し一本釣りでアラを獲ったりしています。今春からは、20 歳の息子さんが漁師となり、現在は親子三代で同じ船に乗り、漁に出ている茂田井さん。まだまだ海に出始めたばかりの息子さんには教えることばかり。大変だけど、息子さんと一緒に海に出られるうれしさを感じています。

後継者不足から、今後、漁師の数が減ることが予想される柏崎支所。一方で柏崎産の鮮魚は、ブランド化が進んでいます。そんな流れがあるからこそ、漁師を続けることに意味があると茂田井さんは息子さんに事あるごとに話をしています。

魚食普及活動の一環で料理教室の講師も行う

ブランド化が進む柏崎産の魚

さらに詳しいインタビュー

有限会社 山波農場 ▪ 名塚あゆみ（なづか）さん

大型農業機械やドローンを操り、仲間と共に農業に汗をかく。女性ならではの視点で規格外野菜の加工、新商品の開発に取り組む。

ヤマノホ ▪ 店橋瑞穂（たなはしみずほ）さん

家族で「はさがけ米」を作り、自社ホームページで通信販売を行う。丁寧な米作りが人気。地元の小学校の米づくり授業で特別講師を務めた。

柏崎青年工業クラブ ▪ 山﨑徹（やまざきとおる）さん

柏崎青年工業クラブ会長。柏崎地域の製造業の未来を担う若手集団をまとめる。若い知識を結集して柏崎工業界の未来像を探る。

THERE IS NOEND（ゼアーズ ノーエンド） ▪ 中村奨（なかむらしょう）さん

JA 柏崎やさい直売所内に店舗を構え「今日の『たべる』を、まちと未来のエナジーに。」をテーマに、まちの素材と生産者の想いをお弁当に込めて販売。

柏崎の夢中人 その2

継承×飛躍

アニメスタジオのあるまちと言われるために

スタジオガッツ有限会社
代表 荒尾哲也（あらおてつや）さん

アニメーターの長澤達也さん（左）と牧野太輔さん（右）

さらに詳しいインタビュー

行政や企業などからの仕事も多数行う

人と関わりながら仕事をすることで日々成長できていると実感

「柏崎アニメスタジオ」は、令和2(2020)年に新設されました。ふたりの若者がIターン移住し、地域に根ざした作品を制作しています。代表・荒尾哲也さんは地方にスタジオをつくることで、スタッフの成長、化学変化が起こることに期待したと話します。「人数が少なく、仕事の細分化ができない柏崎ではアニメーターであっても、依頼者とコミュニケーションを取り、どんな場面でも、自らが率先して仕事をしなければなりません。2人に会うたび、彼らの成長を実感し、柏崎に育てていただいていると感謝しています」。

スタッフの長澤さんは「柏崎のまちの方から、道で声を掛けていただくようになり、少しずつですが、柏崎になじんできたように思えています。柏崎に住んでいる方がこのまちを紹介するときに『アニメスタジオがあるまち』と言っていただけるくらいになりたいですね」。牧野さんも「新潟県内における、アニメーション業界の入口のような存在として認識していただけるように頑張ります」と意気込みます。

子育てしながら働きやすい職場で活気ある毎日

株式会社 北星製作所
佐々木美穂（ささきみほ）さん

溶接工としてものづくりに携わる佐々木さん

同世代が多く働きやすい環境が整っている

最初から最後まで担当 達成感ある溶接の仕事

福島県出身の佐々木美穂さんは結婚を機に、旦那さんの地元・柏崎市に移り住みました。子育てのため、一度は家庭に入りましたが、お子さんが成長したこともあり、復職することを決めました。選んだ職場は、北星製作所。子育て世代に理解のある会社です。現在、同社の中心を担う溶接工として働く佐々木さんは、この仕事の醍醐味（だいごみ）を「自分で考え、想像しながら、作り上げ、完成したときに感じる達成感や充実感」と話します。

一方、柏崎市は子育てに優しい環境だと話しています。急な子どもの体調不良で看病が必要な際に利用した市の病児保育室「ムーミンハウス」。ここは病院内にあり、保育士・医師・看護師がいて、病気の完治まで子どもの面倒を見てくれる施設です。この施設を利用することで安心して仕事に臨めたと佐々木さん。空気もキレイで、お水もおいしい柏崎で、成人後もお子さんたちにずっと暮らしてほしい、そんなふうに佐々木さんは願っています。

さらに詳しいインタビュー

かやぶき職人見習い　小柴康隆（こしばやすたか）さん

地域おこし協力隊を卒業後「日本の文化に携わる仕事がしたい」とかやぶき職人の道へ。県内を中心としたかやぶき屋根の修復現場で修行中。

にしざわ酒店　西沢右文（にしざわみぎふみ）さん

日本一敷居の低い酒屋を目指し、お酒だけでなく全国の「絶対おいしい品」を取り寄せ販売。隣の駄菓子屋さんでは子どもの笑顔が広がる。

柏崎しおかぜ法律事務所　近藤千鶴（こんどうちづる）さん

地元出身の弁護士として、中小企業支援をはじめ、女性や高齢者など、地域の小さな声にも真摯（しんし）に耳を傾ける。スクールロイヤーにも取り組む。

社会福祉法人 柏崎市社会福祉協議会　坂野安希（さかのあき）さん

働くために来た柏崎で、まちのキラキラした素材を題材に、仲間と短編小説を出版。本から始まる柏崎の楽しい思い出づくりを提案。